

令和 7 年度 事 業 報 告

I 公益目的事業に関する事項

令和 7 年度においては、公益目的事業として、農業及び農村に関し、調査研究、その成果の普及、調査研究への助成及び農業及び農村に関する学術上の顕著な貢献をした者の表彰に係る事業を行った。

1 農業及び農村に関する調査研究

(1) 研究員による個別研究

各研究員の研究成果を『農業研究』に掲載した（別添参考）。

坪田邦夫研究員

「アジア諸国との比較に見る日本の農業生産性」

生源寺眞一研究員

「政策・制度をめぐる論文に現れた学会の特色：農業経済学関連 2 学会について」

河原昌一郎研究員

「中国農村戸籍制度の改革と課題」

岩元明久研究員

「わが国近世から近代までの農業技術変遷史 上」

田家邦明研究員

「コメ市場の垂直的差別化と価格上昇—新潟県産コシヒカリに焦点を当て」

荒幡克己研究員

「マクガバンレポートとPFCバランスを巡る日米の政治経済学

—Gastro-Nationalismに反する報告はなぜアメリカ政治で受容されたのか—」

「米消費下げ止まり論の今日的検証

—Preston CurveとFood Convergenceの視点からの接近—」

矢坂雅充研究員

「バター、コメの需給逼迫と価格調整」（研究ノート）

吉岡修研究員・岩元明久研究員

「自給飼料を利用した和牛繁殖の実証的調査研究（13）」

(2) 研究企画委員会方式による研究

農業・農村の諸課題について、興味深い論文を発表した研究者等を招聘し、報告を聴取し、意見交換を行うとともに、その者の了解を得て関係資料等についてホームページに掲載し、関係者に対し情報公開した。

令和 7 年度研究企画委員会

第 1 回（令和 7 年 5 月 14 日開催）

講師：河村 仁氏

「新たな食料・農業・農村基本法について」

第 2 回（令和 7 年 6 月 30 日開催）

講師：木村 崇之氏

「農産物・食品の合理的な価格形成について～食料システム法の狙いと仕組み～」

第3回（令和7年12月1日開催）

講師：深水 秀介氏、内田 真司氏

「水稻収穫量調査の見直しについて」

第4回（令和7年12月15日開催）

講師：前田 浩史氏

「地域乳業の生命力～地域の事例から学ぶ日本酪農産業史～」

第5回（令和8年2月12日開催）

講師：深水 秀介氏、清水 邦敏氏

「2025年農林業センサス（概数値）のポイント」

（3）農業及び農村地域の動向に関する調査研究

農業及び農村に関する調査研究を行っている若手研究者を研究員に委嘱し、地域の動向に関する調査研究を行うこととし、令和7年度においては、引き続き、山浦陽一氏（大分大学経済学部准教授）、小澤 卓氏（公益財団法人日本離島センター総務部総務課長）、小川真如氏（宇都宮大学農学部助教）に委嘱した。

その調査研究成果（山浦陽一氏「中山間地域の農業公社の課題と可能性一定点観測3－3－」、小澤卓氏「離島農業における戦略と組織（その1）」、小川真如氏「関東地方における稲作の特徴と制度的環境（1）」）を『農業研究』に掲載した（別添参考）。

（4）実験農場における調査研究

実験農場においては、令和3年度から開始した黒毛和牛の繁殖雌牛の飼育及び子牛生産並びに露地野菜（キャベツ等）の生産を行う複合経営に関する成立条件の実証調査研究の定量的定性的データの本格的な収集・分析を続け、畜産部門の研究員及び農業技術・野菜部門の研究員の2名体制で調査研究を行った。その研究成果を『農業研究』に掲載した。

なお、実験農場の運営に当たっては、「実験農場連絡協議会」において、事業の実施状況等の把握を行った。

また、外部の学識経験者から成る「実験農場調査研究生産活動事業審査会」において、上記事業実施状況等の報告について意見を聞いた。

2 農業及び農村に関する調査研究の成果の普及

1の調査研究の成果を『農業研究』に掲載し、大学等の関係方面に配布するとともに、ホームページに公表したほか、農事組合法人下高城ふぁあむ 早坂成弘氏他3氏を招き、講演会を開催し、参加者との質疑応答を含め、その講演録を『農業研究』の別冊として、大学等の関係方面に配布するとともに、ホームページに公表した（別添参考）。

令和7年度講演会

第1回（令和7年6月23日開催）

講師：早坂 成弘氏

「共助の精神が育む「ぐるみ型」法人」

第2回（令和7年7月10日開催）

講師：宇根 豊氏

「農を生産業から、めぐみ返しにする一みどり戦略を深く思想化すると一」

第3回（令和7年8月19日開催）

講師：中嶋 康博氏

「新たな「食料・農業・農村基本計画」の策定と今後の政策展開における課題」

第4回（令和7年9月19日開催）

講師：梅本 雅氏

「水田農業における経営環境の変化と技術革新の方向」

3 農業及び農村に関する調査研究の助成

農業及び農村に関する調査研究の将来の担い手に、その調査研究に対し助成し、併せてその成果を普及するため、平成19年度から「人文・社会科学系若手研究者助成事業」を実施している。令和7年度については、応募者から3名を選考し助成を行った。令和8年度にこの成果の報告を聴取し、研究成果として普及するのにふさわしいと認められた場合、令和8年度に発刊予定の『農業研究』に掲載する。

坂元 喬人（九州大学大学院生物資源環境科学府博士後期課程）

「合併集落営農法人の到達点と将来動向に関する研究―多様な地域個性との関連に着目して―」

森岡 昌子（帯広畜産大学助教）

「食料保障から見た自家消費の役割と農家の社会的・経済的動機の解明」

山内 駿太（東京農工大学大学院農学府修士課程）

「四国農業の再編と出現する農業経営体」

4 農業及び農村に関する学術上の顕著な貢献をした者の表彰

農業に関する学術研究上顕著な業績を挙げ、斯学の発展に多大の貢献をなした者を表彰するため、日本農業研究所賞（隔年3件以内、賞金1件100万円）を授与している。

令和7年度は、この第32回として定款及び「日本農業研究所賞表彰規程」第4条の定めるところにより、受賞候補者を公募し、選考委員会（委員長：三輪睿太郎氏）における審査を経て受賞者を下記のとおり決定した。なお、受賞者への表彰式はルポール麴町において、令和8年5月11日に行った。

受賞者

（五十音順）

研究業績の題名

石川 覚

中西 啓仁：「低カドミウム吸収米の開発と吸収抑制メカニズムの解明」

荒尾 知人

堀 俊和：「ため池被災メカニズムの解明と防災支援システムの社会実装」

Ⅱ 収益事業

日本農業研究会館等の当研究所で使用していない部屋を、公益法人等 8 団体に貸し付けた。

Ⅲ 法人の管理運営に関する事項

1 評議員及び役員等に関する事項

令和 7 年度の評議員及び役員等は、令和 8 年 4 月 1 日現在、それぞれ次のとおりである。

(1) 評議員

大 杉	立	(東京農業大学客員教授)
春 見	隆 文	((一財) 日本醤油技術センター学術顧問)
菊 地	敦 子	((一財) 公務人材開発協会理事)
古 在	豊 樹	(千葉大学名誉教授)
佐々木	昭 博	(東京農業大学総合研究所参与(客員教授))
佐 藤	洋 平	(東京大学名誉教授)
染	英 昭	(元農林水産省大臣官房技術総括審議官)
中 嶋	康 博	(日本栄養大学教授)
松 本	光 人	(元農業・食品産業技術総合研究機構畜産草地研究所所長)
八 代	徹 也	(弁護士)
吉 田	岳 志	((公社) 大日本農会会長)

計11名

(2) 理事及び監事

理事長	田 家 邦 明	
常務理事	菅 原 誠 治	
理 事	市 田 知 子	(明治大学農学部教授)
	大 野 高 志	((公社) 日本食肉格付協会会長)
	岡 島 敦 子	(元内閣府男女共同参画局長)
	小 澤 健 二	(元(公財) 日本農業研究所研究員)
	河 原 昌一郎	((公財) 日本農業研究所研究員)
	生源寺 眞 一	((公財) 日本農業研究所研究員)
	西 尾 健	(法政大学名誉教授)
	西 澤 直 子	(石川県立大学参与)
	町 田 勝 弘	((公財) 日本農業研究所研究員)
	松 本 聰	(東京大学名誉教授)

計12名

監 事

高 濱 正 博	(元食品産業中央協議会常任理事)
吉 國 隆	((一財) 大日本蚕糸会顧問)

計 2 名

(3) 顧問

岸 康 彦
服 部 信 司
八 木 宏 典

計 3 名

2 評議員会及び理事会等

令和 7 年度においては、評議員会、理事会及び監事監査は、次のとおり開催された。

(1) 評議員会

「第 1 回」令和 7 年 6 月 17 日

出席者 9 名（評議員総数 11 名）

付議され承認された議案

- ① 令和 6 年度決算書類に関する件
- ② 評議員の選任に関する件

報告事項

- ① 令和 6 年度事業報告に関する件（令和 7 年 6 月 2 日理事会決定）
- ② その他

「第 2 回」令和 8 年 3 月 25 日

出席者 10 名（評議員総数 11 名）

付議され承認された議案

- ① 令和 8 年度事業計画書及び収支予算書に関する件
- ② その他

(2) 理事会

「第 1 回」令和 7 年 6 月 2 日

出席者 12 名（理事総数 12 名）

付議され承認された議案

- ① 令和 6 年度事業報告及び決算書類に関する件
- ② 第 32 回（令和 7 年度）日本農業研究所賞受賞候補者選考委員会の委員委嘱に関する件
- ③ その他

「第 2 回」令和 8 年 3 月 17 日

出席者 9 名（理事総数 12 名）

付議され承認された議案

- ① 令和 8 年度事業計画書及び収支予算書に関する件
- ② 評議員会の招集に関する件
- ③ 第 32 回（令和 7 年度）日本農業研究所賞受賞者の決定に関する件
- ④ その他

(3) 監事監査

令和 7 年 5 月 16 日

出席者 2 名（監事総数 2 名）

令和 6 年度事業報告及び財務諸表等に係わる監査

3 職 員

令和8年3月31日現在の職員数は、次のとおりである。

本 部 研究員10名、総務部長（兼）1名、参事1名、主事補1名
計13名

実験農場 研究員2名
計2名

4 運営体制の充実を図るための取組

（1）公認会計士等による指導・助言

監事監査以外にも事前に二重のチェック体制を整えており、年2回公認会計士等による会計指導・助言を依頼している。今年度は、令和7年4月21日に令和6事業年度会計事務処理に関して、10月28日に令和7事業年度上期会計事務処理に関して公認会計士等より指導・助言を受けた。

（2）防火・防災教育及び訓練

従来より、規程に設けた消防計画に基づき、建物の管理権原者としてテナントと連携し、消防設備士から災害に対する意識や備えの認識について指導を受ける避難訓練及び消火訓練を行っている。今年度は、令和7年8月27日及び令和8年2月25日に実施した。

（3）定例会議の開催

原則毎月はじめに、研究所内におけるスケジュール等を確認する月例会、研究課題や懸案事項等について報告・情報の共有・検討を行う研究企画委員会の定例会議を開催しているほか、理事・評議員に随時事業の実施状況（講演会等）を報告している。

5 図 書

令和7年度における図書資料の受入れ状況は、下表のとおりである。

令和7年度収書数

区分	雑 誌 等			単行書（冊）			備 考
	和	洋	計	和	洋	計	
購入	149	0	149	11	2	13	
受贈	271	0	271	10	0	10	
未登録図書	0	0	0	109	0	109	
計	420	0	420	130	2	132	

蔵書数

区 分	数 量	備 考
単行書前年までの累計数	21,315 冊	購入、寄贈等
令和7年度廃棄数	0 冊	
令和7年度登録数	132 冊	
単行書計	21,447 冊	

(注) 資料類には研究報告、紀要、資料等が含まれる。

IV 事業報告附属明細書

「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する事業報告の内容を補足する重要な事項はないので、附属明細書は作成しない。

別 添

（参考）令和7年度における主要調査研究成果

＊『農業研究』（日本農業研究所研究報告第38号）、令和7年12月、B5、450頁

目次内容

- ・アジア諸国との比較に見る日本の農業生産性（坪田 邦夫）
- ・政策・制度をめぐる論文に現れた学会の特色：農業経済学関連2学会について（生源寺眞一）
- ・中国農村戸籍制度の改革と課題（河原昌一郎）
- ・わが国近世から近代までの農業技術変遷史 上（岩元 明久）
- ・コメ市場の垂直的差別化と価格上昇—新潟県産コシヒカリに焦点を当て（田家 邦明）
- ・マクガバンレポートとPFCバランスを巡る日米の政治経済学
—Gastro-Nationalismに反する報告はなぜアメリカ政治で受容されたのか—（荒幡 克己）
- ・米消費下げ止まり論の今日的検証
—Preston CurveとFood Convergenceの視点からの接近—（荒幡 克己）
- ・バター、コメの需給逼迫と価格調整（研究ノート）（矢坂 雅充）
- ・自給飼料を利用した和牛繁殖の実証的調査研究（13）（吉岡 修・岩元 明久）
- ・中山間地域の農業公社の課題と可能性—定点観測3—3—（山浦 陽一）
- ・離島農業における戦略と組織（その1）（小澤 卓）
- ・関東地方における稲作の特徴と制度的環境（1）（小川 真如）

[特別寄稿]

- ・田中芳男著『動植物字林上・下』を読む

～なぜ稀覯本なのか、酷似する『皇国産物誌略』との関連は～（西尾 敏彦）

[令和6年度 人文・社会科学系若手研究者助成事業]

- ・集落営農の「非農家型継承」への取り組み
—非農家との関係強化を目指した長野県駒ヶ根市の事例—（大井 匠）

＊『農業研究』（別冊）第14号、令和7年9月、B5、126頁

令和7年度日本農業研究所講演会記録（1）

新たな「食料・農業・農村基本計画」の策定と今後の政策展開における課題
(講師 中嶋 康博)
(解題 町田 勝弘)

＊『農業研究』（別冊）第15号、令和7年12月、B5、180頁

令和7年度日本農業研究所講演会記録（2）

目次内容（敬称略、講演会開催順）

共助の精神が育む「ぐるみ型」法人
(講師 早坂 成弘)
(解題 河原昌一郎)

農を生産業から、めぐみ返しにする—みどり戦略を深く思想化すると—
(講師 宇根 豊)
(解題 岩元 明久)

水田農業における経営環境の変化と技術革新の方向
(講師 梅本 雅)
(解題 生源寺眞一)